

妹とあま〜く蕩ける
天使の口リ声耳舐めエッチ♪

「ナレーション」……来月から大学生になるおにーちゃん、ひとり暮らしをする。ずっとお家において欲しいのに……。引っ越しのお手伝いしていると泣きそうになっちゃう」

加奈

「あ、わかった。復習するかもしれないから、でしよ。えへへ。おにーちゃんのことなら、わたし、何でもわかつちゃうんだから」

加奈 「……それで……ね？ ……どうしてひとり暮らしを
したいの？ ……お家が嫌いになっちゃったの？」

1 / 49

「（氣を取り直して、それができずに焦りながら）へ、変なことを聞いてごめんね……！ えっと、お詫びってわけじゃないけど、おにーちゃんのいうこと、何でも聞いてあげる」

「……えっ？ うん。本当だよ。何でも聞いてあげるよ？」

「……ん？　これは……CD？　このCDと同じ事を
して欲しい？　同じ事ってどういうこと？　これ、
歌だよね？」

「『えーえすえむあーる』って書かれてるけど……
ん？ なあに？ 裏側を見ればいいの？」

「ささやき……なんて書いてるんだろ？ いんご？
いんごって読むの？ ささやき淫語で誘惑してく
る、じえいしー妹？ なんだろう？ お話が入って
るのかな？」

「とにかく聴けばいいの？ うん、わかった。じゃあ、今から聴いてくるね」

■Track. 2 おにーちゃんがして欲しいのってこういうことだね？

「……お、おにーちゃんいる？ ……あ、いた。どうしてベッドでうずくまってるの？ なあに？ 俺はとんでもないことをしてしまった？」

加奈 「……それって、わたしに『ささやき淫語』のCDを聴かせたこと？」

加奈 「……おにーちゃんの返事がない。ってことは当たり、なんだ」

加奈 「（CDの内容を思い出して、赤くなって）……す、すっごくエッチなCDだったね。淫語ってエッチな言葉って意味だったんだね……」

加奈 「……い、いちおー……覚えてきたよ？ あのCDで使われてた……そーゆー言葉……。わたし、勉強はできるんだから……」

加奈 「……それで、ああいうことを、わたしがおにーちゃんにすればいいの？」

加奈 「……おにーちゃんの耳元でささやきながら……おにーちゃんにエッチなことをするっていう……」

加奈 「……ねえ、おにーちゃん？ ベッドでうずくまってないで、こっちを向いて欲しいな」

加奈 「……やっぱり返事がない。もー。しょーがないなあ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……こっちを向いて、おにーちゃん」

加奈 「……あのCDみたいに囁いたら、やっとわたしを見てくれた。じゃあ、そのまま仰向けになって」

加奈 「……そのままじっとしててね」

加奈 「（耳元でささやくように）……おにーちゃんがして欲しいのってこういうことだよな？ こうやって耳元でささやきながら耳を舐めたりとか……」

加奈 「（耳元でささやくように）……んちゅっ……れろっ……んちゅっ……ちゅぱっ……れろっ……くちゅ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……舐めながら……淫語？ ……えっとエッチな言葉を言えればいいんだよね……？ 例えば……」

加奈 「（耳元でささやくように）……お、おにーちゃんのこと……お、おちんちん……硬くなってる……よ？ わたしのお股……じゃなくて、お、お……おまんこも、とつくに濡れちゃってるの……」

加奈 「（耳元でささやくように）……っていうか、女の子の大事な部分を……おまんこ……って言うんだね。初めて知ったよ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……そのおまんこ……だけれど……エッチなことしていると濡れちゃものなの？ ……わたしもおにーちゃんとエッチなことしていると濡れちゃうのかな？」

加奈

「（耳元でささやくように）……あのCDみたいに……ねちよねちよ……ぐちゅぐちゅって……エッチな音、しちゃうのかな？ はあ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……でもね……お股がむずむずするのは本当だよ、おにーちゃん……れろっ……ちゅっ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……それでね、おにーちゃん……わたしが、ささやき淫語で上手におにーちゃんを責めることができたら……ひとり暮らし……やめてくれる？」

加奈

「（耳元でささやくように）……えっ？ それはわたしのがんばり次第？ ……ん、わかった。わたし、ちようがんばるね……！ じゃあ、エッチな言葉……えっと……」

加奈

「（耳元でささやくように）……おまんこ………れろろっ………おまんこ………んちゅっ………わたしの………おまんこが………濡れてるよお………れろっ、ちゅっ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……はあ……わたし、ちゃんとできてるかな、おにーちゃん？ ……ん？ されたことがないからわからない？」

加奈

「（耳元でささやくように）……そ、そっか。こーゆーことするの、わたしが初めてなんだね……えへ。嬉しいな……んちゅっ……れろっ……ちゅっ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……もうちょっと激しく舐めてみよっか？ ……ん、わかった。じゃあ、やってみるね……」

加奈

「（耳元でささやくように）……れろっ……んんっ、れろれろ……おまんこお……くちゅ、んん、れろっ……おまんこお……くちゅ……れろっ、ちゅっ……ちゅくっ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……おいしく感じるの……れろっ……ちゅぶ……ちゅっ、ちゅっ……わたしのおまんこが……熱いよお……これね、演技じゃなくて本当に熱いの……」

加奈

「（耳元でささやくように）……それでね、奥の方がムズムズして……れろれろっ……きゅんきゅんっしてるの……んぷっ……れろっ、れろっ……ちゅっ、れろっ……んぷっ……ちゅっ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……おにーちゃんの耳……おいしいかも……不思議だね……味なんてしないはずなのに……れろれろっ、ちゅっ……れろれろっ……れろっ……ちゅっ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……はあ。反対側の耳も舐めてあげるね……」

加奈 「……んしょつと……んっ……はあ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……反対側にとーちゃくつと……じゃあ、こっちの耳も……いくよ？」

加奈 「（耳元でささやくように）……はあ……んっ……んぷっ……れろっ、れろっ……ちゅっ、れろっ……んぷっ……ちゅっ……んちゅっ、れろっ、れろっ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……おにーちゃんってば、耳を舐めてると、ぴくぴくって震えるんだね。感じてくれるのかな……？ ん？ 感じてる……？ やったっ。えへへ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……ちゅっ、んくっ、んちゅっ……あ、エッチな言葉をささやくの、忘れてた……んちゅっ……おまんこお……はあ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……れろっ……はあ……んんっ、ちゅぷっ……この耳の穴が……おにーちゃんにとっての……おまんこ……だよ？」

加奈 「（耳元でささやくように）……はあ……おにーちゃん……み、耳まんこを……舐めて……あげる……れろっ、ちゅぱっ……れろれろっ……耳おまんこ……おいしい……はあ……」

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈 「……ちゅっ……れろっ……ちゅっ……んちゅぶっ……
……はあ……ちゅぶっ、ちゅっ……れろっ……」

加奈 「……いっぱい頬ちゅーしちゃった。懐かしいね、お
にーちゃん。じゃあ、次は……まぶたにキスする
ね。目を閉じて……」

加奈 「……ちゅっ……んちゅっ……れろっ、ちゅっ……
ちゅっ……まぶたにキスするのって、ちょっと怖い
ね。どのくらい強くしていいのかわからないから……
……」

加奈 「……ん？ どうしたの、おにーちゃん？ このくら
いでちょうどいい？ ……うん。よかった。こっち
側のまぶたにもキスしてあげるね……」

加奈 「……ちゅっ……ちゅぶっ……ちゅっ……ちゅっ……
んー……ちゅっ……ちゅっ……はあ……ちゅぶっ……
……ちゅっ……」

加奈 「……はあ……次は首だね……おにーちゃん、少し
横を向いて……んっ、それでいいよ……」

加奈 「……んちゅ、くちゅ……んんっ……れろれろ……く
ちゅ……んふっ……はあ……ちゅむっ……くちゅ……
……んちゅっ……ちゅぶっ、くちゅ……」

加奈 「……あっ……やあんっ……おにーちゃんのおちんち
んが……わたしの……おまんこに当たってるよお……
……」

加奈

「……こうやって腰を動かしながらキスしたら……
あっ……んちゅっ、れろっ……おまんこが……こす
れるう……はあ……れろれろっ、ちゅっ……」

加奈

「……おまんこ……くすぐりたい……れろっ、ちゅっ
……れろっ……おしっこするところ……むずむずし
ちやうう……んちゅっ、れろっ……ちゅっ……」

加奈

「……これ、癖になりそう……おまんこ……おまん
こお……はあ……。あ、わたしが夢中になっちゃっ
てた……。今度は反対の方を向いて……。うん。そん
な感じ……」

加奈

「……ちゅぷっ……くちゅ……ちゅっ……はあ……お
まんこ、変な感じだよお……れろれろ……ちゅ
ぷっ、くちゅ、くちゅ……」

加奈

「……んちゅっ……んはっ……ちゅぷっ……くねく
ねって腰を動かしながら……キスするのぉ……れ
ろっ、ちゅっ……ちゅっ……れろれろっ……ちゅっ
……」

加奈

「……はあ。おにーちゃんの顔にいっぱいキスし
ちゃった。えへへ。……でもね、おにーちゃん。大
事なところにキスしてないよね？ わかる？ どこ
だと思う？」

加奈

「……うん。そうだよ。おにーちゃんの唇……だよ？
いーい？ 恋人みたいなキスをして……。……
うん。……うん。……やったっ。じゃあ、しちゃう
ね……キス……」

加奈

「……んちゅっ。……はあ。わたし、すっごくどきど
きしてるよ、おにーちゃん。こうやって……。おにー
ちゃんと間近で見つめ合いながらキスするなんて……
……」

加奈

「……ん？ おにーちゃんも？ どきどきしてるの？
ふうん、そうなんだ……。えへへ。なんだか恋人み
たいだね、わたしたち」

加奈

「……それでね、恋人ならもっとキスするよね……。？
おにーちゃんも、もっとわたしにキスして欲し
い？ じゃあ、しちゃうね……」

加奈

「……んちゅっ……。ちゅっ……。んちゅっ……。あっ。ま
た、おまんこに……。おちんちんが、あたってるう……
……ちゅっ……。ちゅぶっ……。ちゅっ……」

加奈

「……ねえ、おにーちゃん……。大人のキスもしちゃう
よ？ いいよね？ あのCDでもしてたし……。
じゃあ、少しだけ口を開けて、おにーちゃん……」

加奈

「……えへへ。おにーちゃん、かわいい……。おまんこ
を擦りつけながら……。いっぱいキスしちゃう……。ん
ちゅっ、れろれろ……。んっ……。れろれろ……。ちゅ
むっ……。くちゅ……。んん……」

加奈

「……ああ、おにーちゃんのツバ、おいしい……んっ
……ちゅぷっ……くちゅ……もっと……もっとツ
バ、ちょーだい……れろれろ……ちゅぷつくちゅ……
……んん……んちゅっ、れろっ……」

加奈

「……ねえ、おにーちゃん。あのCDだと『好き』っ
て言いながらキスしてたよね……？ わたしもそう
した方がいいよね？ ……うん。じゃあ、そうする
……」

加奈

「……お、おにーちゃん……好き……
……くちゅっ、ちゅむっ……好きっ……好きだ
よおっ……んんっ……好き……くちゅ……んふっ
……れろれろ……」

加奈

「……大好きなの、おにーちゃん……れろれろ……
ちゅっ、好きっ……れろれろ……ちゅむっ……好
き……くちゅ……ちゅぷつくちゅ……ちゅぷっ
……くちゅ……」

加奈

「……ねえ、おにーちゃんも舌を出して……もっとエ
ッチなキスしよお……？ ……んっ！ んんっ！
んちゅっ……！ はあ……おにーちゃんの舌……気
持ちはいい……んちゅっ、れろっ……」

加奈

「……くちゅちゅぷっ……れろれろ……！ はあああ
ん……んんっ……くちゅちゅぷっ……！ このキ
ス、とっても気持ちいいよお……だから、もっとお
……んちゅっ、れろれろっ……！」

「……好きっ……おにーちゃん、大好きい……ちゅ
ぷっくちゅ……んん……んふっ……ちゅむっ……
……くちゅ……れろれろ……ちゅぷっ……！
はあっ、大好きだよお……！」

「……ぶあつ！　はあ——はあ——はあ——はあ——。すっごいキスをしちゃったね、おにーちゃん……えへへ……。それに、好き好きって言いながらキスするのっていいね……」

「……えっと、次は……あのCDだと……ち、乳首を触ってた気がする。だから、おにーちゃんの服、脱がせてあげるね。身体、起こせる？」

■Track. 3 おにーちゃんの裸を見ると、どきどきしちゃう

「じゃあ、おにーちゃん、バンザイしてね。ん、そんな感じ。んしよっと」

「……おにーちゃんの裸を見てると、どきどきしちゃ
う……あっ！　ごめんね、見とれちゃってた。えっ
と……ズボンも脱がせちゃうね……」

「わっ。股間のところが膨らんでる……これって興奮してる……ってことなんだよね？ 嬉しいな……えへへ……」

加奈 「おにーちゃん。少しお尻を浮かせてね……んしょつと……」

加奈 「ひゃっ！ おちんちん、すっごくおつきくなってる……！？ 興奮すると、こんな風になるんだ……なんだか男らしい感じだね……」

加奈 「一緒にお風呂に入ってた頃は、もっとかわいい感じだったと思うけど……。えっ？ 小さいときと大きいときだと形が全然違うの？」

加奈 「そうなんだ……大きいときはこんな感じなんだね……」

加奈 「でも、こんなに大きいなんて……わたしの中に入るのかな……？ えっ！？ う、ううんっ！ 何でもない……」

加奈 「……えっ？ 自分だけ裸なのは恥ずかしい？ じゃあ、えっと……わたしも裸になった方がいいの……？ ……うん。わかった。わたしも脱ぐね……」

加奈 「……そんなにじっくり見られると恥ずかしいよお。でも、おにーちゃんに見て欲しい……かな。……見て、わたしの裸でときどきして欲しい……」

加奈 「……ふえ？ ブラジャー？ ちょっと前からつけてるよ。おっぱい、大きくなってきたし……。かわいい？ えへへ。わたしも、このブラ、お気に入りなの」

加奈 「サイズ？ このブラのサイズは……Cカップだよ。
まだ小さいけど……これからちゃんと大きくなるから。
きっと……ううん、絶対……」

加奈 「……ん？ おにーちゃんが外したい？ ……じゃあ、
いいよ。背中を向けるね」

加奈 「……ブラのホック、わかる？ うん。そこを外すの」

加奈 「……あつ。指が背中に当たって……んっ……ちよつとくすぐりたい……」

加奈 「……んっ、外れたね。ありがとう、おにーちゃん。
そっち向くね」

加奈 「でも……その……おっぱい、見られるの……恥ずかしくな
ってきちゃった……」

加奈 「……えっ？ 見せてくれないと泣いちゃう？ やだ。
泣かないで、おにーちゃん。見せてあげるから……」

加奈 「……じゃあ、おにーちゃんがブラを取って。……あつ。
……んんっ……おっぱい見られちゃった。まだまだ膨らみ
かけで、絶対大きくなる……と思うから……」

加奈 「……ふえっ？ 小さいおっぱいの方が好き？ そうなの、おにーちゃん？ ……そうなんだ。えへへ……よかった……」

加奈 「ん、なあに？ ……ち、乳首かわいい！？ そんなに見られると隠したくなっちゃうよお……。えっ？ 触りたい！？」

加奈 「あのCDでは、そーゆーことはしてなかったけど、おにーちゃんが触りたいのなら……いいよ？」

加奈 「……あっ。おにーちゃんの手……熱い……んんっ……あっ！ そんな……ゆっくり触っちゃ……だめっ……あっ……」

加奈 「……自分で触るのは全然違うよお……あああ……んっ……やっ、乳首、コリコリしちゃ、だめえっ……！」

加奈 「ほ、ほんとにもうだめっ……！ わたしがおにーちゃんを気持ちよくしてあげなきゃいけないんだから……！」

加奈 「……あ、でも、おにーちゃんが触りたくなったら……いつでも触らせてあげるからね？ その時は言うてね……？」

加奈 「……じゃあ、えっと、スカートを脱ぐね。……ふえ？ スカートも脱がせてくれるの？ じゃ、じゃあ……お願いします……」

加奈

「……んっ」

加奈

「……もっとかわいいパンツをはいておけばよかったな」

加奈

「……あっ。パンツもおにーちゃんが脱がしたいの？

……うー……いいよ……」

加奈

「……ああ、わたし、裸になっちゃった」

加奈

「……これでわたし達は裸んぼうさんだね。恥ずかしいけど、おにーちゃんも裸だから……。じゃあ、仰向けになっておにーちゃん。続きをしてあげるから……」

加奈

「……上に乗るね」

加奈

「……んっ……あっ、おにーちゃんの胸に頭を乗せたら心臓の音が聞こえてきたよ。すっごくときどきしてるね……」

加奈

「……あと、おにーちゃんのおちんちんが……わたしのお腹に当たってる……硬くて、おっきくて……熱い……」

加奈

「……それじゃあ、あのCDみたいにささやきながら今度は乳首を触るね」

加奈

「……こうやって、きゅって摘まんで……」
「……きゅ、きゅって……」

加奈 「……わっ。おにーちゃんがぴくぴくって震えてる……
……そんなに気持ちいいんだ……ふふっ……男の
人って乳首でも感じるんだね……」

加奈 「……ちゃんと右も左も同時に刺激してあげるからね
……コリ……コリ……コリ……コリ……あと、えっ
と……こうやって乳首の周りに指を這わせて……」

加奈 「……あっ、おにーちゃんがまたぴくぴくって震えて
る……こうやってそろっと触るのも気持ちいいんだ
……敏感なんだね……ふふっ……じゃあ、もっとし
てあげる……」

加奈 「……まだ、だよ……まだ乳首は触ってあげない。周
りに指を這わせて……あと一周したら触ってあげる
……んー……まだ3分の1くらいだよ……」

加奈 「……そろそろ半分……んー……あとちよっと……も
うちよっと……ゴール……じゃあ、乳首を触ってあ
げる……」

加奈 「……コリコリコリ……ああっ……！ おにーちゃん
がすっごい仰け反った……！ コリコリコリ……コ
リコリコリ……！ 感じてるおにーちゃん、かわい
い……」

加奈 「……今度は摘まんであげるね……きゅっ、きゅっ……
…… ああ……おにーちゃんの乳首って弾力があつ
て面白いね……コリコリコリ……きゅっ」

加奈 「……摘まんで捻って……きゅっ。コリコリコリ……きゅっ。摘まんで引っ張って……くねくね……くねくね……。あとは――指でぴんって弾くよー」

加奈 「……ぴんっ。もう一回……ぴんっ。……んー？ 全部気持ちいいの？ でも、まだ舐めてないよ？ 舐めて欲しい？ じゃあ、舐めてくださいって言うて、おにーちゃん……」

加奈 「……うん。よく言えました。ふふふっ。偉いね。じゃあ、このかわいい乳首を舐めてあげる……れろっ。あんっ。またビクって反応した……」

加奈 「……やっぱり舐められるのが一番気持ちいいのかな？ ふふふっ……れろれろっ……ちゅぷっ……くちゅ……れろれろ……ちゅぷつくちゅ……んんふ……ちゅむっ……」

加奈 「……反対側の乳首もちゃあーんと指でコリコリしてあげるね――くちゅ、ちゅぷっ……んふ……れろれろ……ちゅぷっ……れろれろ……ちゅぷっ……」

加奈 「……はあ。おにーちゃんの乳首もおいしい……ちゅぷっ……れろれろ……おいしいよお……んふうん……ちゅむっ……れろっ、ちゅっ……れろれろっ……はあ……」

加奈 「……今度はちゅーって吸ってあげるね……ちゅうう
うううううううう……！　ちゅ
ぱっ！　はぁ……」

加奈 「……次は反対の乳首を舐めてあげるね……んふうん
……ちゅむっ……くちゅ……れろれろ……ちゅぷっ
くちゅ……れろっ、ちゅっ……れろれろっ……」

加奈 「……こっちの乳首もグミみたいに弾力があっておい
しい……れろっ、ちゅぷっ……ちゅっ、ちゅぷっ
んっ……くちゅ……れろれろっ、れろれろっ……
ちゅむっ……」

加奈 「……反対側の乳首をコリコリしながら……んっ、れ
ろおっ……ちゅくんっ、くちゅ……ちゅぷつくちゅ
……れろれろ……ちゅぷっ……んっ、くちゅ……」

加奈 「……はぁ。こっちの乳首も同じようにかわいがって
あげなきゃだね。だから、ちゅーって吸ってあげ
る……ちゅうううう……！　ちゅぱっ！
はぁ……」

加奈 「……わたし……乳首をいじられて感じてるおにー
ちゃんを見るのが好きかもお……うっとりしちゃう
……だから、もうちょっとだけ……コリコリコリ……
……」

加奈 「あんっ……またおにーちゃんが仰け反った……だん
だん敏感になってきてない？　なってきたるよね？
コリコリコリ……はぁ……コリコリコリ……」

加奈 「……じゃあ、次は、えっと……あのCDだと……
あ、そうだ」

加奈 「……んっ。また、おにーちゃんの隣に添い寝してっ
と……」

加奈 「（耳元でささやくように）……そうそう。このまま
耳を舐めて、乳首も触るんだよね？ いーい？ ま
た舐めちゃうからね？」

加奈 「（耳元でささやくように）……れろっ……ちゅぷっ
……くちゅ……ちゅく……れろれろ……ちゅぷっ……
……んちゅっ、れろれろっ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……はあ。コリコリって
いじったり、きゅって摘まんだりすると、乳首って
どんどん膨らむんだね……」

加奈 「（耳元でささやくように）……くちゅちゅむっ……
はあああ……ちゅくちゅぷっん……ちゅぷっ……れ
ろれろ……んちゅっ、れろれろっ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……んー……添い寝しな
がらだと、乳首を片方しか触れないね。両方を同時
にいじってあげたいのに……」

加奈 「（耳元でささやくように）……あ、そうだ。ねえ、
おにーちゃん。身体を起こして」

加奈 「わたしはおにーちゃんの後ろに回って……抱きつい
ちやう。えへへ。それでね……」

加奈 「（耳元でささやくように）……後ろから乳首をい
じってあげるの……こうやってコリコリコリって……」

加奈 「（耳元でささやくように）……ああっ……後ろから
抱きついてるから、おにーちゃんがぴくぴくって震
えるの、すごく伝わってくるよ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……コリコリコリ……コ
リコリコリ……きゅう……ふふふっ。いっぱい感
じて、おにーちゃん。ちゃんと耳も舐めてあげるか
ら……」

加奈 「（耳元でささやくように）……ちゅくんっ、くちゅ
……ちゅぷつくちゅ……れろれろ……ちゅぷっ……
んっ、くちゅ……れろれろっ……ちゅっ……れ
ろっ、ちゅっ……ちゅぷっ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……はあ。エッチな言葉
も言うね……れろれろっ……わたしね……れろれ
ろっ……おまんこが……すっごく熱いの……れろれ
ろっ、ちゅうっ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……おにーちゃんの乳首
を……れろれろっ、ちゅっ……いじりながら……ん
ちゅっ……ドキドキしてるの……はあ……ちゅっ、
れろっ……ちゅぷっ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……ちゅぷつくちゅちゅむっ……ああっ、おまんこ……熱いよお……れろれろっ、くちゅんっ、ちゅぷっ……おまんこ……んちゅぷっ……れろれろ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……おまんこお……ちゅむっ……むずむずするよお……くちゅ……んっ、れろっ……ちゅぷっ、れろれろっ……ちゅっ、ちゅくっ、れろれろっ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……はあ。耳たぶをちゅって吸ってあげるね。ちゅうううう………。それで次は優しく嚙んであげる。あむっ、んっ……あむあむっ……はむっ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……あむっ……はむっ……んっ……おにーちゃんの耳たぶもおいしい……はあ……あむっ、はむっ……んっ……ちゅうううう……」

加奈 「（耳元でささやくように）……えへへ。いきなり吸ったら、おにーちゃんがかわいい喘ぎ声を出したね……びっくりした？ じゃあ、しない方がいい……い？ ん？ もっとして欲しい？」

加奈 「（耳元でささやくように）……だよね。おにーちゃん、こんなに感じてるんだもん……じゃあ、もう一回……ちゅうううう……ちゅぱっ！」

加奈

「（耳元でささやくように）……んちゅっ……ちゅっ……れろれろっ……ちゅぷっ……くちゅ……ちゅく……れろれろ……ちゅぷっ……ちゅうつ、れろっ……はあっ……れろっ、ちゅっ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……今度はそっち側の耳を舐めてあげるね……」

加奈

「（耳元でささやくように）……ふうふううう……く……えへへ。くすぐったい？ 急にごめんね。こ……ういうのもいいかなって。じゃあ、また乳首をいじりながら舐めてあげるね……」

加奈

「（耳元でささやくように）……くちゅちゅむっ……はあああ……ちゅくちゅぷっん……あ、わたし、すぐ忘れちゃうね……エッチなこと、言うの……ちゅぷっ……れろれろ……ちゅく……」

加奈

「（耳元でささやくように）……おにーちゃんのおちんちん……んちゅっ、れろっ……触ってないのに……れろれろっ……ぴくぴくって動いてる……かわい……い……れろれろ……ちゅぷっく……」

加奈

「（耳元でささやくように）……わたしの……んちゅう、れろれろっ……おまんこも……ちゅっ……んちゅっ、れろれろっ……じゅくじゅくって……濡れちゃってる……れろっ……んっ……あああ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……パンツが濡れてるの……はつきりわかるくらいぐちよぐちな……ちゅむっ……くちゅ……おまんこお……ちゅぷっ……くちゅ……おまんこ、熱いよお……」

加奈

「（耳元でささやくように）……れろっ、ちゅっ……おにーちゃんの太ももに……わたしのおまんこ……擦りつけてるの、わかるう？ はあ……気持ちいい……おまんこ、いい……れろっ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……それで、こっちの耳たぶも……ちゅうううう……ちゅぱっ！ はあ……あむっ……はむっ、はむっ……あむっ……んっ……はむっ、はむっ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……れろれろっ、んふっ……ちゅく……おまんこ、いいよお……れろれろ……ちゅぷっ……れろれろ……くちゅ……ちゅうううう……ちゅ……！ ちゅぱっ！ はあ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……こうやって裸で抱きついてると、お肌が擦れて気持ちいい……おにーちゃんの体温、直接伝わってきて……おまんこが、すっごく熱くなってる……」

加奈

「（耳元でささやくように）……だからね、おにーちゃんを、こうやってかわいがっていると、うっとりしちゃうの……はあ……れろれろっ……ちゅぷっ、れろれろっ……んちゅっ、れろれろっ……」

加奈

加奈



加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈 「（耳元でささやくように）……じゃあ、えっと……
しこしこしてみるね……」

加奈 「（耳元でささやくように）……しこ……しこ……し
こ……しこ。こんな感じかな？ 気持ちいい？
……うん。気持ちいいんだ。よかった。えへへ……
最初だからゆっくりしてみるね……」

加奈 「（耳元でささやくように）……しこ……しこ……し
こ……しこ……はあ……しこ……しこ……ひゃっ……
……！？」

加奈 「（耳元でささやくように）……今、おちんぽがぴく
ぴくって動いたよ？ 気持ちいいと動いちゃうの？
……そうなんだ。なんだかかわいいね。よしよし
……なでなで……」

加奈 「（耳元でささやくように）……わっ、またぴくぴ
くって動いた。……なでなで……よしよし……え？
ここ、きとうって言うの？ 亀の頭の形をしてる
から？」

加奈 「（耳元でささやくように）……そう言えば、あのC
Dでも亀頭って言ってたね。あと、うらすじ……と
かも言ってた。あ、うらすじって、おちんぽの裏側
のことなんだ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……ん？ 裏筋がくす
ぐつたいの？ 敏感なんだね……さわさわ……さわ
さわ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……わっ。ゆっくり触ると、おちんぽが跳ねるみたいに動くね……面白いな——ふふふっ……さわさわ……さわさわ……なでなで……なでなで……」

加奈 「（耳元でささやくように）……さわさわ……さわさわ……なでなで……なでなで……。んー？ またしごいて欲しい？ うん、いいよ。じゃあ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……しこ……しこ……しこ……しこ……しこ……はあ……しこ……しこ……しこ……しこ……はあ……おにいちやああんっ……わたし、なんだか変だよお……」

加奈 「（耳元でささやくように）……こうやってね……おにーちゃんの耳元で囁きながら……おちんぽをしこしこしてたら、すっごくドキドキするの……はあ……あああ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……このドキドキする感じって……あ、そっか……わたし、興奮しちゃってるんだあ……こんなエッチなことしながら興奮してるう……れろっ、ちゅっ……」

加奈 「（耳元でささやくように）……だから、もっとエッチなことするの……こうやって、おちんぽをしこしこしながら……耳、舐めるのお……」

加奈

「（耳元でささやくように）……んちゅっ、れろっ……ちゅぶっ……れろれろっ……んちゅっ……れろっ、ちゅっ……れろれろっ……あああ……おいしい……おにーちゃんの耳、おいしいね……」

加奈

「（耳元でささやくように）……ちゅく……れろれろ……ちゅぶっく……はああ……んっ……あああ……ちゅむっ……くちゅ……ちゅぶっ、くちゅ……れろれろ……ちゅぶっ……くちゅう……」

加奈

「（耳元でささやくように）……えへへ……耳を舐めながらのしこしこ……気持ちいい……えっ？聞かなくてもわかるだろって？ うー……おにーちゃんの反応を見てたらわかるけど……」

加奈

「（耳元でささやくように）……気持ちよさそうな声、いっぱい出てるし……でも、おにーちゃんの口から聞きたいな……。ね？ 聞かせて？ わたしのしこしこ、気持ちいい？ おにーちゃん？」

加奈

「（耳元でささやくように）……うん……うんっ。えへへ。そんなに気持ちいいんだあ……。嬉しいな……。じゃあ、続けるね……ちゅぶっくちゅ……れろっ、ちゅっ……ちゅぶっ、れろっ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……しこ……しこ……しこ……しこ……んちゅっ、れろっ……しこ……しこ……ちゅくん、ちゅむっ……んふっ……しこ……しこ……ちゅく……れろれろ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……ちゅぷっ……れろれろ……くちゅ……ちゅくちゅく……れろれろ……ちゅぷっ……くちゅ……ちゅぷつくちい……んんっ……れろれろっ……ちゅぷっ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……ん、なあに？ おにーちゃん？ もっと強くして欲しいのお？ んっ……わかった……」

加奈

「（耳元でささやくように）……しこしこ……しこしこ……あ、おにーちゃん、さっきより気持ちよさそう……えへっ……どんだん気持ちよくなってね……なんでもしてあげるから……」

加奈

「（耳元でささやくように）……まずはさっきの続き……耳舐め、だよ？ んちゅっ、れろっ……はあ……んちゅっ、れろれろっ、ちゅっ……ちゅっ……れろっ……はあ……れろれろっ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……しこしこに合わせで、舐めるのも激しくしてみよっか、おにーちゃん？ それがいい？ じゃあ、やってみるね……」

加奈

「（耳元でささやくように）……ちゅむっ、くちゅ、れろん、はあんっ……！ ちゅぷっ、くちゅ、んんっ、ちゅぷっ……！ ちゅくっ、ちゅぷっ、んっ……！ ちゅむっ、れろれろ、ちゅ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……はあ。おにーちゃん
の耳が、ぐちよぐちよになっちゃった……わたし、
もっと……もおーっと興奮してきたよお……！
れろろっ、ちゅぶっ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……ちゅぶっ、く
ちゅっ、れろろっ……！ ちゅくん、はああ
んっ、ちゅぶっ、くちゅ……！ れろっ、んむっ、
ちゅぶっ、んふっ、くちゅ、れろちゅぶっ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……んふうんっ、れ
ろっ、ちゅぱっ、れろろっ……！ んちゅっ、ん
んっ、ちゅちゅっ、ちゅぶっ……！ れろっ、ちゅ
ぶっ、んふっ、れろっ、ちゅぶっ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……んー？ もう少しで
イキそう？ イクって……あ、えっと、せーえき？
せーし？ それが出そうってことだね……？」

加奈 「（耳元でささやくように）……ん、わかった。耳、
舐めててあげるから、このまま出して、おにーちゃ
ん……せーし、いっぱい出して……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……んっ、れろ、ちゅ
ぶっ、くちゅ、じゅぶ、じゅぶぶっ、れろ……！
くちゅ、ちゅぱっ、ちゅぶ、れろっ……！」

加奈

「（耳元でささやくように）……わっ、先っちょがぶくって膨らんだ！？ もう限界？ほんとに出ちゃうんだね……！じゃあ、最後に耳たぶ、ちゅうつて吸ってあげる……！」

加奈

「（耳元でささやくように）……んふっ、れろれろっ、ほら、出しておにーちゃん……！妹にしこされながら情けなくイツちゃうところ、見せて……！」

加奈

「（耳元でささやくように）……ちゅうつちゅうつちゅうつちゅうつちゅうつちゅうつ……
……！」

加奈

「（耳元でささやくように）……んふうっ、れろっ、ちゅぱっ……！ちゅぶっ、んはっ、れろっ、くちゅ……！ちゅぶっ、れろちゅっ……！ちゅうふうふう……！」

加奈

「（耳元でささやくように）……舐めながら、もっとしこしこしてあげる……！んちゅっ……れろれろっ……！んぷっ……んっ……れろっ、ちゅっ……！」

加奈

「（耳元でささやくように）……ちゅぱっ！はあー……すごいね……これがせーしーなんだ……初めて見た。こんなにいっぱい出るんだ……ねばねばしてて熱い……」

加奈

加奈

■Track. 5 .. 舐めて綺麗にしてあげる

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈 「……あのCDみたいなことするの、初めてだって
言ってたし、彼女いたことないし……。おにーちゃん、
かっこいいのにな。わたしは、彼女いないほう
が嬉しいけど……」

加奈 「……あつ、ううん。何でもないよ。えっと、じゃあ、
わたしがお掃除フェラ……してあげるね……」

加奈 「……でも、上手くできなかったらごめんね。とにかく、
やってみる……裏側をゆっくり舐めて……れろっ」

加奈 「……わっ。おちんぽ、すっごい跳ねたよ………
… イッたばかりだから敏感？ そうなんだ。ゆっくり舐めたつも
りだけど……とにかく、続けるね……」

加奈 「……れろっ……んちゅっ……んぷっ……んんっ……
れろっ、ちゅっ……んちゅっ……れろれろっ……
ちゅっ……んちゅっ……れろっ……」

加奈 「……んっ……れろっ、ちゅ……んんっ……ちゅぷっ
……れろれろっ……はあ……あ、こっちにもせーし
ついでに……れろっ……ちゅっ、れろれろっ……」

加奈 「……はあ。せーし……おいしく感じるようになって
きたよ、おにーちゃん。じゃあ、今度はしゃぶってみるね……
歯が当たらないようにして……はあむっ……」

加奈

「……じゅぶっ、ちゅ、れろれろっ……んちゅっ、ちゅぱ……んちゅ……れろっ、んちゅっ……れろれろ、んんっ……はふっ……んちゅ……れろっ……」

加奈

「……んっ？ おっひふなっへきら？ きもひいいの、おにーひゃん？ ……なら、もっほ、ひてあへるね……」

加奈

「……んっ……れろっ、ちゅ……んんっ……ちゅぶっ……れろれろっ……ちゅ、れろれろっ……んちゅっ、ちゅぱ……んちゅ……」

加奈

「……はあ……おひいいっ……おひんひん、おいひいよお……れろっ、んちゅっ……れろれろ、んんっ……はふっ……んちゅ……れろっ……」

加奈

「……んっ、ん——……ちゅぱっ！ さっきみたいにおつきくなったね、おちんぽ」

加奈

「……そんなに気持ちよかったんだ。いちおー……綺麗になったけど……もうちよっと続ける？ フェラチオ……」

加奈

「……うん。いいよ。じゃあ、してあげるね。……はあむっ」

加奈

「……はあ……んっ……んちゅっ……れろっ、ちゅ……んんっ……んふっ……ちゅぱ……ちゅ、ちゅ、れろっ……」

加奈

「……ちゅぷっ……ちゅっ、んちゅっ……れろれろっ
……れろっ、ちゅぱっ、ちゅ……んちゅ……れ
ろっ、ちゅぱっ、ちゅ……れろっ、ちゅっ……」

加奈

「……んぷっ？　ちゅぱっ……またせーし、出てきた
……？　ふえ？　これ、ガマン汁って言うの？
ふうん、そうなんだ……」

加奈

「……気持ちいいと染み出てくるの？　……ふふっ。
おちんぽって、面白いね……。ガマン汁、ぺろぺ
ろって舐め取って、飲んであげるからね……」

加奈

「……はあむっ……んちゅ……んふっ、れろ、ちゅ
ぱっ、ちゅくっ……んんっ……れろれろっ……
ちゅっ、れろっ……ちゅぷっ……れろれろっ……
ちゅっ……」

加奈

「……んー？　もっほ強ふひてほしい？　ん、わはっ
ら」

加奈

「んぷっ！　じゅぶぶぶっ……！　ぴちゅ、くちゅ……
……　んんっ……　れろれろ……くちゅ……！
ぐちゅ、ぴちゅ……　れろれろ……　はああ
あああ……」

加奈

「ぴちゅくちゅ……！　んん……！　んふっ……！
じゅぶぶっ……！　ぴちゅくちゅ……！　れろれろ
……！　ぴちゅ……　れろっ、ちゅぱっ、ちゅ……
……　じゅりゅっ……！」

加奈

「……ちゅぱっ。わたしのお口の中で、おちんぽがぴくぴく震えてる……凄い……！ ガマン汁もドンドン出てきて、舐めても舐めても追いつかないよ……！」

加奈

「……こんなの、フェラチオしているわたしが、すっごくすっごく興奮しちゃうよお……！ はああ……！」

加奈

「……わたしの身体が熱くなって、もっとおちんぽ、しゃぶりたくなっちゃうっ……！」

加奈

「んちゅ、れろっ……！ はああ……！ じゅぶっ、くちゅ……！ んんっ……！ はああ……！ じゅぶっ、くちゅ……！ じゅく……！ れろれろ……！ じゅぶっ……！」

加奈

「……ちゅぱっ！ はああ……！ おにーちゃんの乳首も一緒にいじってあげるね……！ たぶん、できると思う、から……！」

加奈

「……はむっ！ んちゅっ……れろれろっ……！ んぶっ！？ おにーひやんの、ちくひを、さわっはら、おひんひんが、もっとおっひくなっはお！」

加奈

「……じゅぶっ、じゅりゅうう！ ちくひもきもひいーの？ んふふぶっ……もっほ、はわっへあへる……んっ……！ じゅぶっ、くちゅ……！ じゅりゅっ……！」

加奈

「おにーひゃんの、ちくひ、コリコリ……コリコリ……
……じゅぶっ……じゅりゅっ……じゅぶ
ぶっ……じゅぶっ、じゅぼっ……」

加奈

「コリコリ……コリコリい……びちよ、ぴちゅ……
……んふ……れろれろ……ぐちよ、じゅ
ぶっ……じゅりゅっ……」

加奈

「ぴちゅ……れろれろ……ぴちゅ……
じゅりゅっ……れろっ、じゅぶっ……じゅ
るっ……じゅぶっ、じゅぼっ、じゅぶぶぶぶっ……
……」

加奈

「んんっ!? おひんひん、ひくひくっへ ふるえへ
る! せーひ、れそうなの!? いいほ……
わらひのくひにらひて、おにーひゃん!」

加奈

「ちくひ、さわりなはらいカへてあへるはら、いっは
い、らひてえ……」

加奈

「んっ! んぐっ! れろっ、ちゅぶっ、ちゅう
うっ、れろれろっ、ちゅううううううううう
……」

加奈

「んぶっ! んんっ!? んっ、んんんんっ……
……んぶっ、んぐっ、んんんっ……
……」

「じゅぷっ、くちゅ……！ れろれろ……！ じゅ
ぷっ、くちゅう……！ んふうっんっ……！ じゅ
ぷっ、くちゅんんんっ……！」

「んー……んちゅっ、れろっ……じゅりゅっ……んちゅっ……はあああああ……んっ……れろっ、ちゅっ……んちゅっ……」

「（精液を飲み干して）ごくっ！……はあー……」

……飲んじやった……えへへ……。いっぱい出たね、

おにーちゃん……」

「あっ♪ 射精したばかりなのに、まだおちんぽ大きくなったままだね……」

「じゃあ……このまま……おにーちゃんの身体に乗っちゃうね……」

■Track. 6 : ささやきながらセックス……してあげるね

「……んしょつと……はああああー……。あのCDの最後のシーン……ささやきながらセックスしてたよね？ だから……わたしも……してあげるね？ 同じコトする約束だから……」

「……でも、入れる前に……ちよつとだけ……あつ……
……おまんこを自分で触っちゃうね……わたしのエッ
チなお汁で、いっぱい濡れてると思うんだけど……
いちおー……」

加奈 「……んっ……あっ……え？ あ、そっか。これ……オナニーって言うんだよね……はぁ……おにーちゃんの顔が目の前にあるのに……わたし、オナニーしてる……」

加奈 「……でも、ちゃんと準備しておかないと……おにーちゃんの……おっきいからぁ……わたし、初めてなんだし……ぐちよぐちよに濡れてる方がいいよね……？」

加奈 「……こうやっておにーちゃんの目の前で……おまんこいじって……もっ……もおーっと濡らしちゃうの……エッチなお汁でぐちよぐちよにしちゃうのお……」

加奈 「……はぁ……あぁっ……あふっ……んんっ……気持ちいいよお、おにーちゃんあぁんっ……はぁ……あぁぁ……あぁぁ……」

加奈 「……あっ。おにーちゃんが触ってくれるの？ ……わたしのおまんこ。じゃあ、触りやすいように、もうちよっと上に行くね……」

加奈 「（耳元でささやくように）……あっ。またおにーちゃんの耳の側に来ちゃったぁ。……どう？ 触りやすい？ わたしのおまんこ……」

加奈

「（耳元でささやくように）……あっ！　おにーちゃん
の指が……んっ、あっ……！　割れ目の内側を、
ぐちよぐちよっていじってるよお……おつきくて……
ふとおい……んんっ……！」

加奈

「（耳元でささやくように）……はっ……あああ……
……！　気持ちいいよお……あああ……お漏らしして
るみたいに濡れちゃううう……ああああ……んっ……
……！」

加奈

「（耳元でささやくように）……あっ、んっ……はっ
……おにーちゃんああんっ……もっと、もっとお……
おまんこ、いっぱいくちゆくちゆしてえ……ああああ
…………！」

加奈

「（耳元でささやくように）……なんだか、すごい
来るっ……！　これ、イクって言うの？　すごい
よお……！　ああ、だめっ……！　おにーちゃんに
おまんこいじられて、イッちゃう……！」

加奈

「（耳元でささやくように）……ひあっ、あああ……
ああああああああああ……
…………！」

加奈

「（耳元でささやくように）……んんんっ！　あふっ
……！　んくっ、はっ……！　あああああ……
しゅごかったよお……あああ……今のがイクってこ
となんだね……」

加奈 「（耳元でささやくように）……じゃあ、おにーちゃん。おちんぽを……わたしのおまんこに……入れちゃってもいい？ あのカDみたいに……セックスしよお……」

加奈 「（耳元でささやくように）……あ、待ってね。わたしが自分で入れちゃうからね……」

加奈 「……これ、騎乗位って言うんだよね？ んっ……あっ……硬いおちんぽの先っちょが……おまんこの穴に当たってる……」

加奈 「……んっ！ あっ……！ 入るっ……入って、来るよお……！ ああっ………！ んっ、はっ、ああっ………！」

加奈 「……すっごおい……！ おちんぽ、おっきいよお、おにーちゃんあああんっ……！ んんっ……！ あああああ………！」

加奈 「……う、うん？ わたし？ そう言えば、全然、痛くない、よ……！ むずむずする感じ……！ はああああ………！」

加奈 「……あっ！ 一番奥まで入ったああ………！ でも、ごめんね、おにーちゃん………！ おにーちゃんのおちんぽがおつきすぎて……全部入らないよお………！」

加奈 「……んっ、いいの？ 充分気持ちいい？ ……えへへ。よかったあ。でも、わたしが動いたら、もっと気持ちよくなるよ、きつと……。じゃあ、動いてみるね……」

加奈 「……あっ、はっ……ああっ……！ どう？ おにーちゃん、んっ……死ぬほど気持ちいい？ ……えへへ。わたしもね、すっごく気持ちいい……！ あっ、あああ……！」

加奈 「……だめ、身体、起こしてられないよお……！ さっきみたいにおにーちゃんにもたれてもいい？ うん、ありがとお……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……あっ、んっ……！ ゆっくりしてるのに……わたし、身体が溶けちゃいそうなくらい、気持ちいいよお……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……セックスって、すーごい……！ はああ……ああっ……んんっ、はああ、んっ……！ んふうんっ、んっ、はっ……！ あっ、んっ、はっ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……あのCDでも、こうやって耳元でささやきながらエッチしてたけど……これ、すっごく恥ずかしいね……！ んっ、あっ、はああ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……エッチな声を、こんな近くで聞かれちゃうなんて……！ あああ……恥ずかしいけど……興奮しちゃうう……！ はああああ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……はっ……！ んんっ、はっ……！ あっ、やっ、んんっ……！ んふっ、はあんっ……！ んっ、はっ……！ あっ、んっ……！ あああんっ……！」

加奈 「……んっ！ おにーちやあんっ……！ ちゅーしよお……！ ちゅーしたいの……！ ちゅ、れろっ、ちゅぱっ、んちゅ……れる……！ ちゅっ……れるろっ、ちゅっ……ちゅっ……！」

加奈 「じゅぷっ……んんっ……くちゅ……んふっ……れるろ……！ んふっ……じゅぷっ……れるろ……！ はあんっ……じゅぷっ、くちゅ……じゅぷっちゅく……くちゅ……んん……！」

加奈 「おまんこ……突かれながら、ちゅーするの、すっごく気持ち、いい……！ もっと、もっとしよお、おにーちやあああんっ……！ んむっ、れる、ちゅっ、ちゅっ……ちゅぱっ……！」

加奈 「はああ……！ んぷっ、れろっ、ちゅっ……んふうんっ、んんっ……！ はふっ、んんっ、れるろっ……！ れろちゅっ……！ ちゅぱっ、はあああ……！ んちゅっ、れるろれろっ……！」

加奈 「ちゅぱっ……！ ふえ？ おにーちゃんも動きたいの……！ わたしがしてあげるよ……！ ひゃあっ！」

加奈 「（耳元でささやくように）……ああああっ……！ やっ、だめっ……！ こんなのっ、激しいよっ……！ 凄すぎて、わたし、動けないよ……！ ああああ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……んっ、おにーちゃん は動かなくていいの……！ ああっ……！ だめっ、だめえええっ……！ おちんぼ、凄いよ おっ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……おつきくて、硬くて、お腹の中がいっぱいになってるのっ、あああ……！ はっ、あっ……んっ……はあんっ、んんっ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……こんなにされたら、おまんこが壊れちゃうよおっ、んっ……！ はっ、あっ、んっ……！ おまんこ、壊れるっ、壊れるうううっ……！ はっ、あああ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……やっ、あっ、わたし、変だよ、おにーちゃんっ……！ さっき、おまんこいじられて、イッた時みたいな感じが、また来そう……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……でも、その時より、もっと凄い感じなのっ……！ やっ、あっ、あああっ……！ また激しくなったああっ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……おちんぽ、ホントに凄いよお……！ あああっ……！ いいっ、気持ちいいっ、おまんこ、いいのおっ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……好き……おにーちゃん、好きなのおっ……！ 大好きだよおっ……！ あああっ……！ ほんとに好き、大好きいいっ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……ひあっ！ も、もうだめっ、イキそうだよお、おにーちゃあああんっ……！ ああああっ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……おにーちゃんもイキそうなのっ……！？ わたし、おにーちゃんのせーし、いっぱい欲しいよっ……！ だから、おまんこに、いっぱい出して……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……あっ、やっ、もうだめっ、ほんとにだめっ……！ おにーちゃんの耳元でエッチなことを、ささやきながら、イッちゃうのおおっ……！」

加奈 「（耳元でささやくように）……おまんこ……おまんこ……おまんこ……イクのおおっ……！ イク、イクイク——……！」

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈 「……おにーちゃん……好きだよお……だから、どこにも行かないでえ……んちゅっ、れろれろっ……」

加奈 「……ひとり暮らししたら、こーゆーこと……できないよ？ んちゅっ……れろっ……もっとしたいでしょ？ こーゆーセックスう……」

加奈 「……わたしもしたいよお……だから、ね？ ひとり暮らしなんてやめて……んちゅっ……一緒に暮らしそ？」

加奈 「（耳元でささやくように）……わたしね……おにーちゃんのこと……ずっと好きだったんだよ？」

加奈 「（耳元でささやくように）……おにーちゃんとうろなりたくなって……ずっと思ってたんだからあ……」

加奈 「……はあ……くちゅ……れろれろ……ぴちゅくちゅ……んふ……ぴちゅ……ちゅぴちゅ……れろれろっ、ちゅ……」

加奈 「……んー……？ ひとり暮らしする理由？ 教えてくれるのお……？ んちゅっ……れろれろお……」

加奈 「……わたしのことが？ 好きすぎて？ 襲っちゃいそうだったから？ ……なあーんだ。そんなの……」

加奈 「（耳元でささやくように）……いつでも、襲って
来てよかったんだよ？ だから……ね？」

加奈 「（耳元でささやくように）……ひとり暮らしやめる
なら……おにーちゃんがしたい時に……いつでもし
てあげる……ね？ どーお？ おにーちゃん？」

加奈 「……ふえ？ ひとり暮らし……やめる？ ほんと？
……えへへ。嬉しい……ありがと、おにーちゃん
……」

加奈 「……こういうセックスも……もつと違うセックスも
……いっぱいしようね……大好きだよ、おにーちゃ
ん……んちゅっ」

ゝ…ゝ 終幕 ……ゝ